

ディプロマ・ポリシー(DP)ルーブリック

評価の軸（コア・コンセプト）と 観点（ディプロマ・ポリシー）		レベル1	レベル2	レベル3（卒業時到達レベル）
1 Humanity 人間性				
	DP1：人を全人的に捉え、生命の尊厳を重んじる豊かな感性と倫理観を身につけている。	<input type="checkbox"/> 生物学的・心理学的・社会的側面といった人の多面性について具体的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護を取り巻く倫理的課題とその背景を述べることができる。	<input type="checkbox"/> 倫理的課題を解決するための理論や倫理原則，思考方法を理解し，看護職の責任と責務を自覚した姿勢を身につけている。	<input type="checkbox"/> 倫理的課題を解決するための理論や倫理原則に基づき，看護職としての責務と役割を優先して行動できる。
2 Community 地域性				
(1)	DP2：人々の暮らしを支え，地域社会の健康増進に貢献できる能力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 人を生活者として理解し，地域社会の多様な健康課題と看護が提供される多様な場について説明できる。	<input type="checkbox"/> 様々なライフスタイル，健康レベルにある人々への住み慣れた地域での健康支援の必要性について説明できる。	<input type="checkbox"/> 様々なライフスタイル，健康レベルにある人々の，個人および地域の特性に対応した看護を実践できる。 <input type="checkbox"/> 地域の特性や社会資源，多様な健康支援方法の理解のもとに，地域社会の健康増進に貢献する活動を実践できる。
(2)	DP3：保健医療福祉のチームの一員として信頼関係を築き，連携・協働する能力を身につけている。	<input type="checkbox"/> チームの一員として，報告・連絡・相談の必要性を理解し，他のチーム員および指導者・教員と適切にコミュニケーションをとることができる。	<input type="checkbox"/> 地域包括ケアにおいてチームで対応することの重要性を理解し，チームを構築するために求められる要素と看護職の役割，他職種の役割を説明できる。	<input type="checkbox"/> 様々な健康レベルにある人々の，地域で暮らすためのニーズに対して保健医療福祉チームで連携・協働する支援内容を理解し，継続看護の観点で看護を実践できる。
3 Internationality 国際性				
	DP4：グローバル社会における看護の役割を理解し，異なる言語・文化背景に配慮した看護を実践できる能力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 国際的な相互理解に言語の果たす役割について述べることができる。	<input type="checkbox"/> 国内外において多様な言語・文化・価値観をもつ人々が暮らす現状を理解し，多様な背景に配慮した看護の必要性について説明できる。	<input type="checkbox"/> グローバル社会における保健医療福祉の現状と課題ならびに日本の保健医療福祉の特徴の理解をふまえ，看護の役割について自身の考えを述べることができる。
4 Professionalism 看護実践能力				
(1)	DP5：看護専門職者として多様な状況に対応し，科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的な能力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 看護の対象となる人々との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを展開できる。 <input type="checkbox"/> 日常生活援助を中心とした看護技術を安全・安楽・自立に配慮して実施できる。	<input type="checkbox"/> 基本的な看護援助技術を修得し，安全・安楽・自立に配慮して実施できる。 <input type="checkbox"/> 成長発達，健康障害や治療に伴う人間の様々な身体的・精神的反応について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護学の知識を用い，根拠ある看護実践を考えることができる。	<input type="checkbox"/> 対象と信頼関係を構築し，成長発達，健康障害や治療に伴う人間の様々な身体的・精神的反応のアセスメントに基づいた看護を実践できる。 <input type="checkbox"/> 対象の個性や状況をふまえ，科学的根拠に基づいて自らのアセスメントや看護を説明できる。
(2)	DP6：看護専門職者として専門性を自律的に探究し，継続的に向上させていく姿勢を身につけている。	<input type="checkbox"/> 大学で看護を学ぶことへの目標を持ち，意欲的・自律的に学修に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 専門書籍・文献を検索し，様々な情報を適切に整理・活用して学修を深めることができる。	<input type="checkbox"/> 自己の看護実践や学修成果を振り返り，助言のもと自らの課題を明らかにし，自己学修に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 基本的な研究方法の知識をもち，助言・支援を受けて研究実施，成果発表ができる。	<input type="checkbox"/> 継続的に自己の看護や学修の実践を省察（リフレクション）し，主体的に自らの課題を明らかにして取り組み看護実践を向上させることができる。 <input type="checkbox"/> 自己を見つめ，キャリアデザインを自律的に描くことができる。 <input type="checkbox"/> 生涯教育や看護研究を通じて専門性を自律的・継続的に向上させていく探究心を身につけている。